

きほくのまち人探訪

「長年にわたり地域の健康づくりに寄与 知事表彰を受賞」



わたなべ あつみ
渡邊 安津美 さん

渡邊安津美さんは、20年以上にわたり子どもたちや高齢者への食育の推進や、地域の食生活改善に向けた活動に取り組んでいます。

平成11年に日吉村保健栄養推進協議会に入会した渡邊さん。仲の良い先輩から「一緒に活動しよう」と声をかけてもらったことが入会のきっかけでした。合併後は鬼北町食生活改善推進協議会の会員となり、86歳を迎えた今も現役の推進員として活動しています。「長い間続けて来られたのは、一緒に活動する仲間が恵まれていたこと。そして体が元気であったこと」と振り返ります。

食生活改善推進協議会の日吉支部長や会長なども歴任した渡邊さんは、令和元年に、地域住民とともにサロンを立ち上げました。サロンでは高齢者の集いの場を設けて、認知症予防のための体操、料理教室などを開催しています。

そして、このたび、これまでの活動で地域の健康づくりに多大な功績を残したことが認められ、栄養関係功労者知事表彰を受賞しました。6月22日、町長室で兵頭町長から表彰状を受け取った渡邊さんは「周りの方々の協力があってこそこの受賞。これからも元気である限り活動を続けていきたい」と笑顔で話していました。

ALTの鬼の里Diary ~ Chrisdelle編 ~

「I want to cherish local shops」



先日、友達と初めて日本のさくらんぼを食べました。とても美味しかったので、またスーパーで買いたいと思います。

スーパーに行けば、年中を通してあらゆる種類の果物が販売されています。とても便利ですが、私は新鮮で旬な果物を販売している地元のお店を大切にしたいと思っています。

いつでも購入できる果物としてりんごがありますが、りんごの旬は8月から9月です。旬のとき以外でも販売ができるのは、この時期に摘み取ったりんごを化学薬品で処理した上で、冷蔵

保存をすることで、長期間の保存が可能になったからです。世界中の生産者から輸入をして販売されている場合もあります。

地元のお店で販売されているものは、新鮮でさらに安心して食べることができます。また、お店を利用することで地域コミュニティの構築に役立つとともに、地元の経済が刺激され、地域活性化にも繋がると思います。

スーパーの安さも魅力的ですが、地元のお店で売られているものをチェックしながら、上手に買い物をしたいです。

地域おこし協力隊活動日記

「トラフ楮の株分けを行いました！」

地域おこし協力隊2年目

まさき たけお
正木 健夫



泉貨紙の原料であるトラフ楮の株分けを北宇和高校の生徒の皆さんと一緒に実施しました。若い株を掘り起こし、泉貨紙保存会の畑に引越しです。このトラフ楮は、平成30年に宮城県白石市から鬼北町に贈られたもので、株分けを行うことで少しずつ収穫量を増やしてきました。

保存会では、冬に行う紙漉きの作業だけではなく、シーズンオフには製造工程で一番大変で地味な力作業である楮の栽培も行っています。晩秋の収穫時の成長が楽しみです。

